令和 8 年 10 月 1 日

半たわみ性舗装　特記仕様書

第１条　適用範囲

本特記仕様書は、名古屋市緑政土木局が所管する半たわみ性舗装に適用するものである。

本特記仕様書に、記載されていない事項に関しては、土木工事標準仕様書、舗装設計施工指針、舗装施工便覧並びに工事施工方法に関する公的基準を適用する。

ただし、ポーラスアスファルト混合物を母材として、半たわみ性舗装を行う場合は、本特記仕様書**「２．１　アスファルト混合物」**及び**「２．２　半たわみ性舗装用アスファルト混合物」**を適用しないものとする。

第２条　材　料

２．１　アスファルト混合物

１）　骨　材

アスファルト混合物用骨材は、**表－２．１～２．２**に示す道路用砕石 JIS A 5001 に適合したもの又はこれと同等品以上の品質を有するものを使用する。

表－２．１　アスファルト混合物用骨材呼び名

項目＼呼び名		S-20 (5 号)	S-13 (6 号)	S-5 (7 号)
粒径		20～13 ㎜	13～5mm	5～2.5mm
品質		土木工事標準仕様書による		
通過質量百分率(%)	26.5mm	100		
	19	85～100	100	
	13.2	0～15	85～100	100
	4.75		0～15	85～100
	2.36			0～25
	1.18			0～5

表－２．２　アスファルト混合物用骨材

項目＼呼び名	砂	石灰石粉
粒径	20～0mm	600μｍ以下
品質	土木工事標準仕様書による	

２）　アスファルト

半たわみ性舗装の表層に用いるアスファルト混合物は舗装設計施工指針に示す混合物を基本とし、**表－２．３**に示す標準的な粒度範囲に入る骨材混合比で決定する。

表－２．３　半たわみ性舗装用アスファルト混合物の粒度範囲

フルイ目		粒度範囲	
		最大粒径 13 ㎜	最大粒径 20 ㎜
通過重量百分率（%）	26.2mm	－	100
	19.0	100	95～100
	13.2	95～100	35～70
	4.75	10～35	7～30
	2.36	5～22	5～20
	600μm	4～15	
	300μm	3～12	
	75μm	1～6	
ｱｽﾌｧﾙﾄ量（%）		3.0～4.5	
ｾﾒﾝﾄﾐﾙｸの最大浸透厚さの標準		5 ㎝前後	10 ㎝前後

半たわみ性舗装に用いる表層アスファルトは、**表－２．４**に示すポリマー改質アスファルトあるいはこれと同等品以上のものを使用することができる。

表－２．４　ポリマー改質アスファルトの性状

項目＼種類		ポリマー改質アスファルトⅡ型
針入度(25℃)	1/10mm	40 以上
軟化点	℃	56.0～70.0
伸度(15℃)	㎝	30 以上
引火点	℃	260 以上
薄膜加熱質量変化率	%	－
薄膜加熱針入度変化率	%	65 以上
タフネス(25℃)	N・m	7.8 以上
テナシティ(25℃)	N・m	3.9 以上
備考　・密度(15℃)は、試験表に付記すること ・140℃、160℃及び180℃での動粘度を試験表に付記すること ・試験方法は、「舗装調査・試験方法」を参照する		

注）プラントミックスタイプについては、予め使用する舗装用石油アスファルトに所定量の改質材を添加し、その性状が表－２．４に示す値に適合していることを確認する。

２．２　半たわみ性舗装用アスファルト混合物

半たわみ性舗装に用いるアスファルト混合物のマーシャル安定度試験に対する標準的性状を、**表－２．５**に示す。

表－２．５　半たわみ性舗装用アスファルト混合物の標準的性状

密度 (g/cm^3)	安定度 (kN)	フロー値 (1/100cm)	空隙率 (%)	突固め回数 (回)
1.90 以上	2.94 以上	20～40	20～28	50

２．３　浸透用セメントミルク

半たわみ性舗装に用いる浸透用セメントミルクの目標性状を、**表－２．６**に示す。所定の作業時間や強度を得るため、温度条件により超速硬セメントミルクに凝結遅延材を添加することができる。

表－２．６　半たわみ性舗装用浸透用セメントミルクの目標性状

項目	標準的性状	試験方法
フロー値（Pロート）　（秒）	10～14	舗装調査・試験法便覧 C041
圧縮強度〔7日養生〕　（MPa）	9.8～29.4	JIS R 5201
曲げ強度〔7日養生〕　（MPa）	2.0 以上	舗装調査・試験法便覧 C042

第３条　施　工

３．１　タックコート

タックコートは、設計図書で指定する材料とする。

３．２　敷均し及び締固め

タックコートの養生を十分行った後、混合物の敷均しを行う。

開粒度アスファルト混合物の施工は、通常のアスファルト舗装に準じて行うが、開粒度アスファルト混合物はアスファルトのダレや温度低下を生じやすいので所定の機能を損なうことの無いように十分検討して作業標準を定め、それに基づいて施工する。

開粒度アスファルト混合物の敷き均し及び締固めの目標温度については、使用するバインダーによって異なるため、主任技術者はバインダーの製造元の説明を聞き、十分検討した後監督員の承諾を得て目標温度を決定する。

３．３　浸透用セメントミルクの充填

浸透用セメントミルクは、材料及び配合によってその特性が異なるので、施工にあたってはその特性を十分把握して行う。

浸透用セメントミルクの施工は、舗設後即日充填する場合は舗装体表面の温度が５０℃以下になってから行う。その場合、舗装体にゴミ、泥、水などが残っていないことを確認する。舗設後交通解放し後日充填する場合は、骨材の剥離や飛散、又はゴミ、泥等の汚れが生じないような処置をとる必要がある。

セメントミルクが表面に残っていると、路面のすべり抵抗値を低下させることがあるので、舗装表面の骨材の凹凸が現れる程度にセメントミルクをゴムレーキ等で除去する。

なお、浸透用セメントミルクの使用量は**表－３．１を標準とする。**

表－３．１　セメントミルクの標準使用量

充填厚	標準使用量 L(100m2 当たり)	
	開粒度 As(13)	改質H型As(13)
４ｃｍ(遮水型)	1008	840
５ｃｍ	1260	1050

３．４　交通開放

交通開放までの一般的な養生時間は**表－３．２**の通りとする。

表－３．２　交通開放までの養生時間

セメントミルクの種類	養生時間
普通タイプ	約３日
早強タイプ	約１日
超速硬タイプ	約３時間

第４条　品質管理・品質試験及び出来形管理

品質管理・品質試験及び出来形管理は、土木工事標準仕様書による。

半たわみ性舗装の品質試験として、**表－４．１**に示す項目を実施し、規格値は満足しなければならない。

表－４．１　品質試験規格値

項目	開粒度 5 cm 若しくは ﾎﾟｰﾗｽｱｽﾌｧﾙﾄ 5cm 100％浸透	開粒度 10 cm 若しくは ﾎﾟｰﾗｽｱｽﾌｧﾙﾄ 10cm 100％浸透	備考
すべり抵抗値	0.45 以上 (60 以上)		DF ﾃｽﾀｰ(60km/h)又は BPN(WET) 箇所毎又は 500m² 毎

※(　)内の数値は BPN である。

第５条　その他

その他、不明事項については本市監督員と協議するものとする。

以上